

RESP-T for Windows Version 5.1.0 Release Note

平成 21 年 11 月 9 日

(株)構造計画研究所

耐震技術部

1. ご利用前に【重要】

Version5.1.0 以前のバージョンからご利用頂いている方は、セキュリティデバイスの更新が必要になります。詳しくは、「導入マニュアル」の第 6 章「セキュリティデバイス情報の更新」をご覧ください。

2. ご利用環境の変更

Windows XP(64bit 版)、Windows Vista(32bit 版・64bit 版)、Windows 7(32bit 版・64bit 版)でご利用頂けるようになりました。ただし、64bit 版では、WOW64 (Windows On Windows 64) を使用し、32bit で動作します。

Windows Vista/Windows 7 対応及び 64bit 対応に伴い、利用環境が以下のように変更になります。

表 1 利用環境

対応機種	Intel プロセッサ(Pentium4 以上推奨) 搭載の PC/AT 互換機
対応 OS	Windows 2000 Professional Windows XP Professional 32bit/64bit edition Windows Vista Business/Ultimate 32bit/64bit edition Windows 7 Professional/Ultimate 32bit/64bit edition
メモリ	512MB 以上(Vista または 7 2GB 以上)
HDD	10GB 以上の空き容量
ディスプレイ	解像度 1024×768 以上、256 色以上
プロテクトキー	弊社からご提供したもの

以下の必須コンポーネントが必要になります。

- Microsoft .Net Framework 2.0 *1
- Windows インストーラー 3.1 *1
- Sentinel System Driver Installer 7.5.1 (Win32bit/Win64bit 版) *1

*1 RESP-T for Windows のインストーラーよりインストール可能です。

3. 変更履歴

● Ver5.0→Ver5.1.0

- ・ 剛域付き 2 点支持バネ要素に軸方向バネを追加しました。
- ・ 減衰要素及び剛域付き 2 点減衰要素にて、N-D の履歴出力機能を追加しました。
- ・ 材軸直交分割要素に部材荷重配置で「MLLF」を使用したとき、軸力の出力がでない現象を改善しました。
- ・ BEAM 要素の MN 相関にて、 M_y のみ線形とした場合、 M_y の θ が履歴出力結果に出ない現象を改善しました。
- ・ BEAM 要素の相関なしで、 M_y 、 M_z が LOOP4、LOOP1 のように剛性低減と一般ループが混在した場合、履歴出力結果が出ない現象を改善しました。
- ・ 節点数の MAX を 15700 点から 20000 点としました。
- ・ T-Viewer において、マウスアクションによる視点の変更を可能にしました。
(Ver.1.7→Ver.1.8)
- ・ 計算実行画面のグリッドで、クリックアンドドロップによるデータ追加に対応しました。
- ・ 計算実行画面のバージョン情報に、プロテクトキー情報表示を追加しました。
- ・ 計算実行画面のバージョン情報に、プロテクトキー情報書き換え機能を追加しました。
- ・ ポスト実行画面に、全チェック（一括選択）機能を追加しました。
- ・ ポスト実行画面に、ファイルの結果ファイル名表示を追加しました。
- ・ 計算実行画面・ポスト実行画面・T-Viewer を Windows XP(64bit 版)、Windows Vista(32bit 版・64bit 版)、Windows 7(32bit 版・64bit 版)に対応しました。
- ・ プロテクトキードライバを Windows XP(64bit 版)、Windows Vista(32bit 版・64bit 版)、Windows 7(32bit 版・64bit 版)対応に変更しました。
- ・ インストーラーが、Windows XP(64bit 版)、Windows Vista(32bit 版・64bit 版)、Windows 7(32bit 版・64bit 版)に対応しました。

● Ver4.1a→Ver5.0

- ・ MAXWELL 要素にすべり支承機能を追加しました。
- ・ 部材別 Rayleigh 減衰機能を追加しました。
- ・ MAXWELL 要素のビンガムダンパ機能にて、1.0 以上の次数で要素力が 0 となる現象を改善しました。
- ・ 材軸直交分割要素の最大値出力に軸方向歪を追加しました。
- ・ MN 相関に武田型で、軸力変動が微小な場合の制御を改善しました。
- ・ Windows XP で利用した場合、計算実行画面のデータ選択用チェックボックスが非表示となる現象を改善しました。
- ・ 計算実行画面に、データチェック機能を追加しました。
- ・ 計算実行画面に、全チェック（一括選択）機能を追加しました。
- ・ 計算実行画面からのエラー表示画面に、文字検索機能を追加しました。
- ・ 計算実行画面のメニューから、マニュアル(PDF)を表示できる機能を追加しました。
- ・ T-Viewer を Windows XP で利用した場合、終了時にエラーメッセージが表示される現象を改善しました。(Ver.1.6→Ver.1.7)
- ・ メモリサイズ 800Mb の計算部 DLL を追加しました。(tsmain1_L5)

● Ver4.1→Ver4.10a

- ・ コマンド「*OHST」にて、履歴ループの出力が多い場合に異常終了する現象を改善しました。
- ・ 逆行型でのスケルトン上からの逸脱を改善しました。
- ・ 部材荷重の「TYPE 2」を使用した場合の、部材中央のモーメント符号の誤りを改善しました。
- ・ ゴム支承トリリニアモデルの内部ループでの障害(異常終了)を改善しました。
- ・ 辻モデルの性能を複数指定した場合、 β 値が効かない部材が発生する障害を改善しました。

以上

ユーザーサポート

RESP-T に関する技術的なご質問や、操作方法に関するお問い合わせは、弊社「RESP-T ユーザーサポート」までメールにてお問い合わせください。

- ・ サポートのご利用は、RESP-T のユーザーとしてユーザー登録をいただいている方で保守サービスの対象となっている方のみとさせていただきます。
- ・ お問い合わせ内容によっては、回答に少々お時間をいただく場合もございます。あらかじめご了承ください。

メールでのお問い合わせ

メールのお問い合わせには、ご質問内容をお書きいただき、下記メールアドレスまでお送りください。

RESP-T ユーザーサポート受付窓口

<mailto:respt@kke.co.jp>